

# プログラム

幹事会 11:00～11:30

開場 11:30

開会の挨拶 12:05～12:10

## 一般演題1 [腎・尿路上皮] 12:10～13:20

---

座長：大橋 瑠子(新潟大学医歯学総合研究科 分子・診断病理学分野)  
西山 博之(筑波大学 医学医療系 腎泌尿器外科学)

- 1-1 術後に診断されたmesonephric adenomaの二例  
芝 美咲 (富山大学腎泌尿器科学講座)
- 1-2 血清AFP高値が診断契機となった卵黄嚢腫瘍分化を伴う尿路上皮癌の1例  
藤本 健尊 (国立病院機構姫路医療センター)
- 1-3 Urothelial carcinoma with yolk sac differentiation  
寺本 祐記 (京都大学医学部附属病院 病理診断科)
- 1-4 筋層非浸潤性膀胱癌に対する膀胱内注入療法の病理学的観点から見た有効性と限界  
野呂 卓秀 (東邦大学医療センター佐倉病院 泌尿器科)
- 1-5 上部尿路上皮癌における病理学的ステージアップの術前予測因子  
山口 遼太郎 (東京都立広尾病院)
- 1-6 術前診断で腎盂癌を疑い免疫染色にて診断したXp11.2転座型腎細胞癌の1例  
保科 勇斗 (自治医科大学 腎泌尿器外科学講座)
- 1-7 TFE3再構成性腎細胞癌との鑑別が問題となった類上皮性血管筋脂肪腫  
近藤 由佳 (藤田医科大学医学部病理診断学講座)
- 1-8 転移性Mitファミリー転座型腎細胞癌に対して免疫複合療法を施行した1例  
元島 崇信 (熊本大学大学院生命科学研究部 泌尿器学講座)
- 1-9 胸椎への晩期再発・転移を伴うコハク酸脱水素酵素欠損性腎細胞癌の一例  
安井 万里子 (帝京大学医学部病理学講座)
- 1-10 コハク酸脱水素酵素欠損性腎細胞癌の3例  
長嶋 洋治 (東京女子医科大学 病理診断学分野)

## 特別講演 13:20～14:20

---

座長：川崎 隆(新潟県立がんセンター新潟病院 病理診断科)

### SL-1 尿路上皮癌は増える治療法を選択する時代： 適切な検体採取・保存の重要性

田岡 利宜也 (香川大学医学部附属病院 泌尿器・副腎・腎移植外科 病院准教授)

## SL-2 尿路上皮癌における遺伝子検査成功のための精度管理 ～病理医と泌尿器科医の連携～

羽場 礼次 (香川大学医学部附属病院 病理診断科・病理部 病院教授)

共催：ヤンセンファーマ株式会社

休憩 14:20～14:30

---

幹事会報告 14:30～14:35

---

一般演題2 [腎] 14:35～15:45

---

座長：古屋 充子 (北海道大学病院 病理部病理診断科)

森 啓一郎 (東京慈恵会医科大学 泌尿器科)

### 2-1 腎乳頭状腺腫の1例

岡田 充生 (東京医科大学病院 泌尿器科学分野)

### 2-2 腎細胞癌との鑑別が困難であった傍糸球体細胞腫瘍(Juxtaglomerular cell tumor)の1例

田沼 光三郎 (筑波大学腎泌尿器外科)

### 2-3 Other Oncocytic Tumors of the Kidney 1例

楊 豊強 (東京医科大学病院 泌尿器科学分野)

### 2-4 転移性腎細胞癌における免疫チェックポイント阻害薬に関連したサルコイド様反応(Sarcoid-like reaction, SLR)の1例

福島 貫太 (東京医科大学八王子医療センター 泌尿器科)

### 2-5 急速に進行し、診断が困難であったINI-1陰性の高異型度浸潤性腎癌の一例

石川 裕己 (慶應義塾大学医学部 泌尿器科)

### 2-6 ELOC-mutated renal cell carcinomaのマルチオミックス解析

深川 彰彦 (国立がん研究センター研究所 がんゲノミクス研究分野)

### 2-7 タイプの異なる2つの乳頭状腎細胞癌が同一腎に発生し部分切除術を施行した1例

結縁 敬治 (神鋼記念病院)

### 2-8 乳頭状腎細胞癌における泡沫細胞の集簇量は 予後や薬物治療効果の予測指標として有用な可能性がある

塩原 正規 (大阪公立大学大学院医学研究科 診断病理・病理病態学)

### 2-9 腎細胞癌のStage migrationの検討：治療の分岐点となるDown-stageを中心に

高尾 ともよ (桑名市総合医療センター 病理診断科)

### 2-10 腎癌病理の多様性と精密医療の実現に向けた層別化法の開発

軸屋 良介 (横浜市立大学 大学院医学研究科 泌尿器科学)

## EL-1 前立腺導管癌の病理と分子病態

高原 大志(愛知医科大学病院病理診断科 講師)

## EL-2 前立腺癌治療を再考する ～根治療法とホルモン療法、そして個別化医療へ～

前川 滋克(岩手医科大学医学部 泌尿器科学講座 講師)

共催：アストラゼネカ株式会社

休 憩 16:55～17:05

## 特別企画 「取り扱い規約のここが知りたい！」 17:05～17:35

座長：大野 芳正(東京医科大学 泌尿器科)

川崎 隆(新潟県立がんセンター新潟病院 病理診断科)

### SP-1 前立腺

回答者：佐藤 峻(東京慈恵会医科大学附属柏病院 病院病理部)

質問① 組織学的な膀胱筋層浸潤の判断基準を教えてください。

質問② 精嚢浸潤について精嚢筋層への浸潤をpT3とするのだと思いますが、実際には精嚢周囲結合織浸潤もpT3にしている施設もあると思います。精嚢周囲結合織浸潤はどう判断したらいいのでしょうか？

### SP-2 尿路上皮

回答者：都築 豊徳(愛知医科大学医学部病理診断学講座)

質問① 診断の不確実性から尿路上皮異形成は、腎盂・尿管・膀胱癌取り扱い規約第2版から推奨されない診断名となっていますが、腫瘍性と思われるが上皮内癌にできない場合どうしたらいいのでしょうか？

### SP-3 精巣

回答者：都築 豊徳(愛知医科大学医学部病理診断学講座)

質問① 脈管侵襲pT2はコンタミとの鑑別はどうしたらよいのでしょうか。Seminomaはコンタミしやすいので脈管侵襲対象外でしょうか。

質問② pT3 精索浸潤の判断基準は？私は精巣上縁よりも頭側に進展していたら 精索浸潤としています。

質問③ 胚細胞腫瘍の各成分の比率を記載すること(Seminoma 50%, Embryonal ca. 30%, Teratoma 20%など)に意義はありますか？存在する成分の羅列で十分ですか？

質問④ 精巣腫瘍転移巣の化学療法後の所見について。腺上皮にやや異型があると、teratomaか腺癌かで悩みます。鑑別点があれば教えて欲しいです。

### SP-4 腎 アンケート結果

質問① 今回の規約では多房嚢胞性腎細胞癌は低悪性度多房嚢胞性腎腫瘍となりました。また規約では癌のままですが、WHO2022では淡明細胞乳頭状腎細胞癌は淡明細胞乳頭状腎腫瘍となっています。両者は再発転移が皆無で、部分切除によって治癒が見込まれるので、過剰な追加治療、神経質すぎるフォローを回避するためです。患者さんの中には、がん保険の申請を考えられる方がおられると思いますが、泌尿器科の先生方はどのように対処されていますか？(臓器は違いますが尿路腫瘍のPUNLMPにも共通すると思います。)

座長：佐藤 勇一郎(宮崎大学医学部病理学講座 腫瘍形態病態学分野)  
橋本 剛(東京医科大学八王子医療センター 泌尿器科)

- 3-1** 神経内分泌早期胃癌が腎転移を来した一例  
水越 創大 (東京医科大学八王子医療センター)
- 3-2** 肺腺様嚢胞癌の腎転移の1例  
野田 和 (東京女子医科大学 泌尿器科)
- 3-3** 前立腺部尿道由来腺癌と診断した1例  
川崎 隆 (新潟県立がんセンター新潟病院病理診断科)
- 3-4** 非転移性の退縮性胚細胞腫瘍の一例  
原田 怜 (香川大学医学部附属病院)
- 3-5** 透析患者の腎周囲腔に認められた多発腫瘤形成性病変  
渡邊 麗子 (聖マリアンナ医科大学病理学)
- 3-6** 後腹膜に発生し非典型的な組織像を呈した孤立性線維性腫瘍の1例  
萬 昂士 (東京医科大学人体病理学分野)
- 3-7** 生検時診断に難渋した前立腺腺様嚢胞癌の1例  
稲村 真紘 (福井大学医学部附属病院 泌尿器科)
- 3-8** 放射線治療後に発生した前立腺血管肉腫の1例  
倉橋 豊 (大阪国際がんセンター 泌尿器科)
- 3-9** mCSPCにおける臨床病理学的検討：篩状構造とIDC-Pの解析を中心に  
大久保 陽一郎 (神奈川県立がんセンター 病理診断科)
- 3-10** ロボット支援下前立腺全摘除術後のGrade Group 4におけるcribriformの腫瘍量と術後生化学的再発の関連の検討  
下平 憲治 (湘南東部総合病院 泌尿器科、東京医科大学病院 泌尿器科)
- 3-11** Intraductal carcinoma of the prostateを考慮した新たなpT分類の作成とその検証  
仙波 玲美 (桑名市総合医療センター病理診断科)